(19)日本国特許庁(JP)

(12)特許公報(B2)

(11)特許番号
特許第7488263号
(P7488263)

(45)発行日　令和6年5月21日(2024.5.21)

(24)登録日　令和6年5月13日(2024.5.13)

(51)国際特許分類
Ａ４４Ｃ　5/24 (2006.01)

ＦＩ
Ａ４４Ｃ　5/24

請求項の数　11　（全8頁）

(21)出願番号　特願2021-534609(P2021-534609)
(86)(22)出願日　令和1年12月16日(2019.12.16)
(65)公表番号　特表2022-514556(P2022-514556A)
(43)公表日　令和4年2月14日(2022.2.14)
(86)国際出願番号　PCT/EP2019/085352
(87)国際公開番号　WO2020/127051
(87)国際公開日　令和2年6月25日(2020.6.25)
審査請求日　令和4年10月25日(2022.10.25)
(31)優先権主張番号　01589/18
(32)優先日　平成30年12月21日(2018.12.21)
(33)優先権主張国・地域又は機関
スイス(CH)

(73)特許権者　506059942
カルティエ インターナショナル アーゲー
スイス国　６３１２　シュタインハウゼン　ヒンターベルクシュトラーセ　２２
(74)代理人　100147485
弁理士　杉村 憲司
(74)代理人　230118913
弁護士　杉村 光嗣
(74)代理人　100174023
弁理士　伊藤 怜愛
(72)発明者　ロマイン シャイレット
フランス国　２５３９０　フランジュブッシュ リュ ドゥ シャルメ　５
審査官　渡邉 洋

最終頁に続く

(54)【発明の名称】　ブレスレット用折り畳み式バックル留具

(57)【特許請求の範囲】
【請求項１】
２つのブレスレットストラップ、または２点でワンピースブレスレットに取り付けられるように配置された折り畳み式バックル留具（１）であって、
－着用者の腕と接触することを意図された第１の留具要素（３）と、
－蝶番（９）を介して前記第１の留具要素（３）に連結された第２の留具要素（７）と、
－前記折り畳み式バックル留具（１）を折り畳まれた状態に保持し、使用者による操作に応答して前記折り畳み式バックル留具（１）を展開状態にすることを可能にするように配置された係止システムと
を備える折り畳み式バックル留具（１）において、
前記係止システムは、
－管状体（１９ａ）と、管状体（１９ａ）から軸方向に突出する少なくとも１つの格納式止め金具（２５）を備えるばね棒（１９）であって、前記格納式止め金具（２５）は、前記格納式止め金具（２５）を移動位置に保持する傾向がある復元力（Ｆ）を受け、前記ばね棒（１９）は第１の留具要素（３）に配置されるばね棒（１９）と、
－前記第２の留具要素に固定され、少なくとも１つの開口部（２７）を備えるカバー（１１）であって、前記開口部（２７）は、カバー（１１）の内面（１１ａ）に設けられ、前記格納式止め金具（２５）と協働することができる、カバー（１１）と、
－前記カバーに取り付けられ、使用者による前記操作に応答して前記開口部（２７）を離れるために、前記格納式止め金具（２５）と協働するよう配置された少なくとも１つの

押しボタン（２９）と
を備えることを特徴とする折り畳み式バックル留具（１）。
【請求項２】
前記押しボタン（２９）は、使用者による前記操作に応答して、それを前記管状体（１９ａ）の内側に向かって押すために、前記止め金具（２５）の自由端部と協働する、請求項１に記載の折り畳み式バックル留具（１）。
【請求項３】
前記棒（１０）は、前記第１の留具要素（３）によって構成される２つの側壁（２１）の間に延在し、前記止め金具（２５）は、使用位置で側壁（２１）の一方から突出する、請求項１または２に記載の折り畳み式バックル留具（１）。
【請求項４】
前記側壁（２１）は、留具（１）が折り畳み状態にある場合に、前記カバー（１１）の内部に入れ子になるように配置される、請求項３に記載の折り畳み式バックル留具（１）。
【請求項５】
前記カバー（１１）は、その内面の１つに位置し、前記留具（１）がその展開状態からその折り畳み状態になる際に、前記格納式止め金具（２５）を格納させるように配置される少なくとも１つの斜角面（１１ｂ）を備える、請求項３または４に記載の折り畳み式バックル留具（１）。
【請求項６】
前記留具要素（３、７）の各々は、それぞれのブレスレットストラップに、またはワンピースブレスレットのそれぞれの点に取り付けられるように配置される、請求項１～５の何れか一項に記載の折り畳み式バックル留具（１）。
【請求項７】
前記第１の留具要素（３）に連結され、前記第２の留具要素（７）と同一の特性を備える第３の留具要素を備え、前記ばね棒（１９）のうちの２つは、前記第１の留具要素（３）の中央位置に、互いに隣接して配置され、一方が前記第２の留具要素（７）のカバーと、他方が前記第３の留具要素（８）のカバー（１１）と協働するように配置される、請求項１～５の何れか一項に記載の折り畳み式バックル留具（１）。
【請求項８】
請求項１～７の何れか一項に記載の折り畳み式バックル留具（１）を備えるブレスレット。
【請求項９】
前記ブレスレットの２点で前記折り畳み式バックル留具（１）に取り付けられたワンピースブレスレットを含む、請求項８に記載のブレスレット。
【請求項１０】
各々が前記折り畳み式バックル留具（１）に取り付けられた２つのブレスレットストラップを備える、請求項８に記載のブレスレット。
【請求項１１】
請求項１０に記載のブレスレットを備える腕時計。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、時計製造および宝飾品の分野に関する。より具体的には、宝飾品または時計のブレスレット用折り畳み式バックル留具に関する。
【背景技術】
【０００２】
文献ＵＳ２０１８／３５２９１５には、第１のセクションを備え、この第１のセクションがブレスレットのストラップと第２のセクションの両方に連結された折り畳み式バックルを備えたブレスレット留具が記載されている。また、この後者は次いで、カバーにも蝶番で連結されおり、このカバーには他のブレスレットストラップが取り付けられている。

留具が使用位置（すなわち、折り畳み位置）に確実に係止されるようにするために、第１のセクションは、第１のセクションの表面から延びるきのこ形の係止要素を備える。きのこ部は使用位置でカバーに入り、そこでラッチを摺動させることで係止状態に保たれる。係止要素を解放するために、カバーのいずれかの側で横方向に延びる２つの押しボタンが設けられる。これらの押しボタンは、ラッチの後退を制御するように配置されており、したがって、その作動時には係止要素が解放される。そうすることで、留具を展開することができる。

【０００３】

ただし、この配置は、特にカバー内のラッチに関しては比較的複雑であり、あまり小型ではない。本質的に、係止システムのさまざまな部品を収容するために、カバーは比較的大きな寸法でなければならない。

【０００４】

したがって、本発明の目的は、前述の欠点が少なくとも部分的に克服される折り畳み式バックルを提供することである。

【先行技術文献】

【特許文献】

【０００５】

【文献】米国特許公開第２０１８／３５２９１５号

【発明の概要】

【０００６】

より具体的には、本発明は、請求項１によって定義されるように、ブレスレット用の折り畳み式バックル留具に関する。無論、この留具は、２つのブレスレットストラップ（時計ブレスレットの場合）、または２点でワンピースブレスレット（宝飾ブレスレットの場合）のいずれかに取り付けられるように配置されている。この後者の場合、ブレスレットは、留具が開くことができるように、柔軟であるか、または蝶番式である。

【０００７】

ブレスレットは、第１の留具要素、蝶番を介して前記第１の要素に連結された第２の留具要素、および前記留具を折り畳まれた状態に保持し、使用者が手動操作で前記留具を展開状態にすることを可能にするように配置された係止システムを備える。

【０００８】

本発明によれば、係止システムはばね棒を備え、ばね棒は、前記棒によって構成される管状体から軸方向に突出する少なくとも１つの格納式止め金具を備え、前記格納式止め金具は、それを移動位置に保持する傾向がある復元力を受ける。この棒は、前記止め金具が、第２の留具要素にしっかりとまたは枢動可能に固定される、キャップの内面に設けられた対応する開口部と協働できるように、第１の留具要素に配置される。内面という用語は、第１の要素に直接面するように配置された面を意味する。したがって、第１の要素は、着用者の腕と接触することを意図されており、留具の下部要素と考えることができ、他の要素（または以下に見られるような複数の他の要素）が連結される架台として機能する。

【０００９】

止め金具を格納するために、前記キャップは少なくとも１つの押しボタンをさらに備え、押しボタンは、使用者が押しボタンを押した後、前記開口部を離れさせるために前記格納式止め金具と協働するように配置される。典型的には、しかし強制ではないが、棒の各側に延びる２つの格納式止め金具が設けられ、これらの止め金具の各々は、キャップの各側に設けられたそれぞれの押しボタンと協働する。

【００１０】

この構造は特に非常に小型であると同時に、留具の２つの要素間の安全で信頼性の高い係止を可能にする。

【００１１】

有利には、前記押しボタンは、使用者が押したことに続いて、それを前記管状体の内側に向かって押すために、前記止め金具の自由端部と直接的または間接的に協働する。そう

することで、留具が開くことができるように、止め金具が前記開口部から移動される。
【００１２】
有利には、前記棒は、前記第１の留具要素によって構成される２つの側壁の間に延在し、前記止め金具は、使用位置で側壁の一方から突出する。構造が１つ折り留具（すなわち、２つのブレードを備える留具）に関連するか、または２つ折り留具（すなわち、３つのブレードを備える留具）に関連するかに応じて、これら２つの側壁は、第１の要素の自由端部（再び、前記蝶番を含まないその端部で）に、または適当であるなら、この後者の中央位置に配置することができる。これらの側壁は、留具が折りたたまれた状態にある場合に、前記キャップの内側に入れ子になるように配置することができる。
【００１３】
有利には、前記キャップは、その内面の１つに位置する少なくとも１つの斜角面を備え、前記斜角面は、前記留具がその展開状態からその折り畳み状態になる際に、前記格納式止め金具を自動的に、すなわち追加の動作なしに押し戻すように配置される。
【００１４】
１つ折り留具構造において、前記留具要素の各々は、それぞれのブレスレットストラップに、またはワンピースブレスレットのそれぞれの点に取り付けられるように配置される。
【００１５】
２つ折り留具構造において、前記留具は、前記第１の要素にも連結され、特にこの後者に関して同一または対称であることによって、前記第２の要素の特性を再現する第３の留具要素を備える。前記ばね棒のうちの２つは、上記のように、前記第１の要素の中央位置に、互いに隣接して配置される。無論、かかる場合には、各棒はそれぞれのキャップと連動するように配置される。この構造において、第２の要素および第３の要素の各々は、それぞれのブレスレットストラップ、またはワンピースブレスレットのそれぞれの点に取り付けられるように配置され、第２の要素および第３の要素は、典型的には、この後者の２つのそれぞれの端部で第１の要素に連結される。
【００１６】
これらの構造は、ワンピースの宝飾ブレスレット、または腕時計用の２ストラップブレスレットであって、ブレスレットまたはブレスレットストラップが上記のように留具に取り付けられている状況で用いることができる。
【図面の簡単な説明】
【００１７】
【図１】折り畳み状態での、本発明による留具の斜視図である。
【図２】展開された状態での図１の留具の斜視図である。
【図３】図１の平面Ａの断面図であり、この平面はばね棒と交差している。
【図４】図３と同様の図であり、押しボタンが押し下げられている。
【図５】トリプルブレード留具の概略図である。
【発明を実施するための形態】
【００１８】
本発明の他の詳細は、添付の図面を参照して与えられる以下の説明を読むと、より明確に明らかになるであろう。
【００１９】
図１および２は、それぞれ、使用（折り畳んだ）位置および展開（広げた）状態における、本発明による折り畳み式バックル留具１を示す。
【００２０】
留具１は、留具の主軸線に沿った細長い形状である第１の留具要素３を備える。この第１の要素３は、それらの間に隙間５を画定するように並んで配置された一対の側部材３ａによって形成される。第１の要素３のこの構造はまた、分割ブレードと見なすことができる。
【００２１】
同じく、同一の方向に細長いブレードの形態の第２の留具要素７は、第１の要素３の端

部を第２の要素７の端部に接続する蝶番９を介して前記第１の要素に連結される。使用位置では、第２の要素７は、着用者の快適性を最大限にするために、第１の要素３の２つの側部材３ａの間の隙間５に、この後者の上面および下面を超えて延在しないように配置される。理想的には、第２の要素７の上面および下面は、実質的に、第１の要素３の対応する表面の延長上にあるが、これは必須ではない。

【００２２】

第２の要素７の自由端部は、対応する蝶番１３を介してこの端部に連結されたキャップ１１を担持する。あるいは、キャップ１１は、第２の要素に固定することができ、またはその中に組み込むことができる。キャップ１１は、必要に応じて、ブレスレット（図示せず）またはワンピースブレスレットの端部を取り付けるための手段を備える。図示の実施形態では、これらの手段は一対の開口部１５であり、そのうちの１つのみが図に示され、キャップ１１の内面に互いに向き合って配置され、従来の棒のピボットと協働するように配置される。他の構成も可能である。必要に応じて、他のブレスレットストラップまたはワンピースブレスレットの別の部分は、留具１が使用位置にある場合に、第１の要素３の端部３ｂからキャップ１１の内側に向かって延びるピン１７を介して、または他の適切な取り付け手段によって、特にキャップ１１に設けられたものと同様の一対の対向する開口部によって、第１の要素に取り付けることができる。

【００２３】

留具１は、それをその使用位置に、すなわち図１に示されるように折り畳み状態に保持するように配置された係止システムをさらに備える。この係止システムは、第１の要素３と第２の要素７との間に配設される。

【００２４】

図示の実施形態では、第１の要素３の自由端部３ｂ、すなわち蝶番９を含まない端部は、前記端部３ｂによって構成される側壁２１の間に延びるばね棒１９を備える。このばね棒１９は、一般に知られているように、コイルばね、エラストマー要素等の少なくとも１つの弾性要素を収容する管状体１９ａを備え、この弾性要素は、棒１９に設けられた格納式止め金具２５（しばしば「ピボット」と呼ばれる）を、それらのそれぞれの移動位置で互いに分離して保持するよう機能する復元力（矢印Ｆによって概略的に示される）を提供する。

【００２５】

各側壁２１には、それぞれの格納式止め金具２５が収容され、管状体１９ａが側壁２１の間に配置されている貫通開口部２３が設けられる。あるいは、棒の管状体１９ａは、特に、この管状体が、接着結合、溶接、強制取り付け、圧着等によって側壁２１に固定されている場合に、これらの開口部２３を貫通することができる。

【００２６】

使用位置（図１および３を参照）において、側壁２１はキャップ１１の内側に入れ子になっている。止め金具２５は、側壁２１から突出し、キャップの内側側面１１ａに設けられた対応する開口部に収容され、弾性要素の作用によってそこに保持される。したがって、この状態では、止め金具２５と開口部２７との協働により、第１の留具要素３の自由端部３ｂの側壁２１にキャップ１１を係止し、したがって留具１を折り畳み状態に保持することができる。

【００２７】

止め金具２５がキャップ１１の開口部２７を離れるようにするために、各止め金具２５は、キャップ１１が設けられている対応する押しボタン２９と協働することができる。各押しボタン２９は、前記対応する開口部２７に収容され、ばね棒１９の止め金具２５と同軸である作動指部３１と１つとして並進運動する。また、各作動指部３１は、その自由端部に配置されたフランジ３１ａを備える。対応する押しボタン２９が解放されると、このフランジは、キャップ１１に組み付けられた押しボタンを保持するために、前記開口部２７によって構成される肩部に当接する。それぞれのばね３３は、戻りばねとして機能するために各押しボタン２９とキャップ１１との間に配置されており、押しボタン２９をその

休止（押し下げられていない）位置に保持するように機能する。無論、押しボタンが止め金具２５と直接的または間接的に協働する他の押しボタン２９構造も可能である。

【００２８】

使用者が押しボタン２９を押し下げると、押しボタンと一体に並進運動する指部３１が、ばね棒１９の止め金具２５の自由端部に押接する。次に、止め金具２５は、復元力Ｆに反して、互いに接近するように動かされ、こうすることで、これらの止め金具は、キャップ１１の開口部２７から解放され、これにより、前記キャップが第１の要素の自由端部３ｂから分離される。したがって、第２の要素７は、第１の要素３に対して旋回可能であり、したがって、図２に示される状態にするために、留具１を展開することができる。キャップ１１が端部３ｂから離れるように動かされると、指部３１がもはやそれらに作用しなくなると直ちに、止め金具２５は、力Ｆの影響下でそれらの休止位置に自動的に復帰する。

【００２９】

使用者が留具１を閉じる場合、使用者は、必ずしも押しボタン２９を押す必要はないが、これを行うこともできる。止め金具２５がキャップ１１の内側に戻り始めると、この後者の内面１１ａによって構成される斜角面１１ｂは、止め金具２５の格納を引き起こし、その後、力Ｆの作用下で開口部２７内に後退する。次いで、留具は使用（折り畳み）状態になる。

【００３０】

図示しない変形例において、１つの押しボタン２９のみを設けることができ、押しボタン２９に関連付けられていない棒１９の格納式端部２５は、球形または円形であり、ボール戻り止めとして機能する。そうすることで、２つの要素３、７が単一の押しボタン２９の押し下げに続いて互いに対して旋回されると、この端部はそれ自体で開口部２７を離れることができる。

【００３１】

さらに、第１の留具要素および第２の留具要素３、７の全体的な形状を逆にすることも可能であり、第１の要素は、第２の要素によって構成される２つの側部材の間に収容される単一のブレードを有する。

【００３２】

また、留具要素３、７の形状は、特にそれらの曲率、側部材の数、ブレード等の点に関して、製造業者の要求に適合させることもできる。例えば、第２の要素７は、側部材３ａの間に入れ子にされる代わりに、使用位置において第１の要素３に重ね合わせることができ、これは、特に２つの要素３、７が打ち抜き板金で作られている場合に有利な構造である。第１の部分３は、蝶番９を大幅に越えて延びることができることにも留意されたい。

【００３３】

図５は、上記の第２の要素７と同様の第３の要素８を備え、これらの要素の各々が第１の留具要素３のそれぞれの端部に連結されている二重折り畳みバックル留具１を概略的に示す。この後者の中央点（この場合はその中央）には、側壁２１の間に延在する２つのばね棒９があり、各々が第２の要素７および第３の要素８の各々によって構成されるそれぞれのキャップ１１と協働する。各キャップ１１は、ブレスレット（ストラップ）上のその場限りの点に固定されることを意図されており、上記したと同じようにして、それが備える押しボタン２９を押し下げることによって第１の要素３から解放することができる。したがって、かかる変形例では、第１の要素３は、ブレスレット（ストラップ）の一方の端部を直接担持することを意図されておらず、第２の要素７および第３の要素８を介して間接的にそれに接続されている。

【００３４】

さらに、上記と同じ構造の変形例は、２つ折り留具を備えたこの変形例にも適用できる。

【００３５】

本発明を、特定の実施形態ならびにいくつかの明示的な変形例に関連して上記して説明してきたが、請求項によって定義される本発明の範囲から逸脱することなく、さらに他の追加的な変形例も考えられる。

【図面】

【図１】

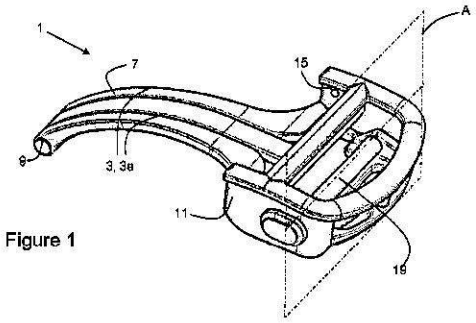


Figure 1

【図２】

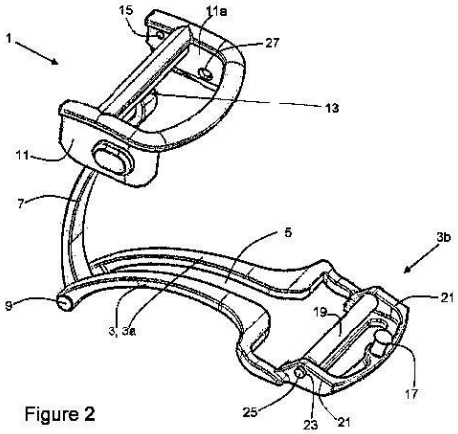


Figure 2

【図３】

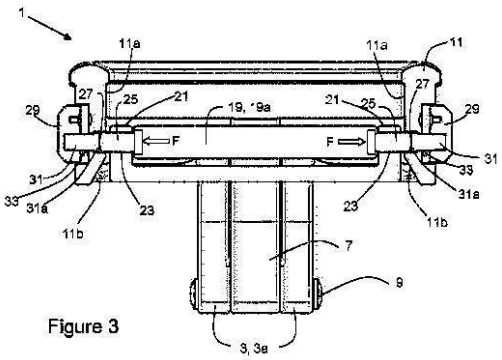


Figure 3

【図４】

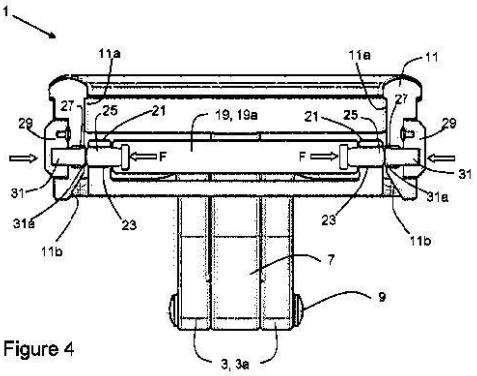


Figure 4

【図５】

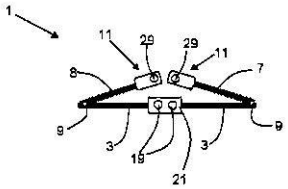


Figure 5

フロントページの続き

(56)参考文献 特開２０１９－０００２３９（ＪＰ，Ａ）
特開平０８－３２２６１４（ＪＰ，Ａ）
特表２００１－５０９４０８（ＪＰ，Ａ）
欧州特許出願公開第００９１４７８１（ＥＰ，Ａ１）
国際公開第９９／００２０６１（WO，Ａ１）
西独国実用新案公開第０９１１４４４６（ＤＥ，Ｕ）
特開平１０－１９２０１５（ＪＰ，Ａ）

(58)調査した分野 (Int.Cl.，ＤＢ名)
Ａ４４Ｃ ５／００－ ５／２４